平成28年10月5日



# 従容録に学ぶ(五八)

#### 「示衆」 第一三則 臨済瞎驢 のようになっている。

[本 則]

這の瞎 驢 辺に向いて滅却たことを。」(重賞の下には必ず を滅却しては不得んぞ!」(甚で死急と著すや。)聖云く、 を滅却しては不得んぞ!」(甚で死急と著すや。)聖云く、 「争て敢えて和尚の正法眼蔵を滅却さん」。(小心の皆するもなだにない。 を滅却しては不得んぞ!」(甚で死急と著すや。)聖云く、 なお大胆。) 済云く、「忽しある人が汝に問わば作麼生か 対えん?」(虎口の裏に身を横う。)聖、便ち喝す。(機に当っ はなどにも譲らず。) 済云く、誰か知らん、吾が正法眼蔵 では父にも譲らず。) 済云く、誰か知らん、吾が正法眼蔵 では父にも譲らず。) 済云く、れるとして三聖に嘱す。(老婆は などにも譲らず。) 済云く、れるとして三聖に嘱す。(老婆は などにも譲らず。) 済云く、れるとして三聖に嘱す。(ととは などにも譲らず。) 済云く、れるとして三型に嘱す。(ととは などにも譲らず。) 済云く、れるとして三型に嘱す。(ととは などにも譲らず。) 済云く、れるとして三型に嘱す。(ととは などにもまらな。 しているととなる。) (重賞の下には必ず

勇夫あり。)

臨済禅師の示寂一一五○年遠忌を記念して、『従容録』 臨終時におけるすさまじいばかりの動向です。伝記はも う何度も紹介しましたので省略します。この「臨済瞎驢」 の一則は『臨済録』末尾にみえる機縁が典拠なのでしょ すが、慧然は禅師によって悟りを得たのち、仰山・徳山・ すが、慧然は禅師によって悟りを得たのち、仰山・徳山・ すが、慧然は禅師によって悟りを得たのち、仰山・徳山・ まず、万松さんの〔示衆〕を例によってわかりやすく まず、万松さんの〔示衆〕を例によってわかりやすく まず、万松さんの〔示衆〕を例によってわかりやすく

世の民は生きてなどいけん〉の諺などおかまいなしど顧みもせん。当然ながら、〈法令の通りにやると、「もっぱら道俗たちの接化に尽して、自分のことな

だ。あたかも、



枕をへし折る だわい。そん な男の臨終は な男のながら

のかな?」

もおかまいなしだ、といっているのです。 しい禅風にかけて、雲水がついてゆけなくて に行えば民衆は生きられない」という古伝の 言葉で、これを臨済さんの払拳棒喝という厳 原文の「尽法無民」とは「法令を杓子定規

つぎに、本命の〔本則〕です。

ね?」すかさず三聖は「喝」と大声を発し 生の仏法をほろぼすことがありましょう。 をほろぼしてはならんぞ!」「どうして先 然を呼び、「わしが死んでも、 てほろびるのを、 のだったかねと尋ねたら、君はどう答える 「もし誰かが君に、臨済の仏法はどんなも 臨済さんがご臨終の時、弟子の三 臨済「わしの仏法が、このロバめによっ 誰が知るだろうな?」 わしの仏法 一聖慧

意は、ワシの仏法なんかを大切にしていては とんでもなく悪い意味なのに、 を滅却する」ことですが、これは表面的には 本則はまさにそんな典型。 逆であることがしばしばあるからです。この 通りの意味ではなく、実際の真意はまったく これだけ。分かりますか。分かりません 禅の公案や語録がむつかしいといわれる その禅語の意味もさることながら文字 忘れろ、と突き放しているのです。 眼目は「正法眼蔵 臨済さんの真

> と肯えるものであって、けっして師から弟子 りの心であり、仏心といってもよい。ですが、 それは不断の修行精進によってのみ、ズシン 実そのもののすばらしいはたらきのこと。 (V .ったい、「正法眼蔵」という言葉は、 悟 真



聖慧然が修行した雪峰山の現況

0) しいままにはたらかせましたが、みな求道者 生 にホイと伝達されるものではありません。 からこそ臨済禅師は、その悪らつとされる衆 ための慈愛の方便だったのですね。 一接化の手段として、 「払拳棒喝」などをほ だ

> という姿勢を示した。そこで臨済さんは、こ 生やっていた慈愛の方便ををそのまま実践 言です。 スゴイ最期でした。最期の言葉もスゴイの一 のもとに息を引取った。まさに、 また新たなはたらきをしてくれる、と大満足 れを認め、ワシの仏法は君によってほろび、 三聖の「喝」という答えは、 わたしはそんな手段にはかかわらない、 師の臨済が平 禅者らしい

しました。これも遺言の一つです。 たことがあり、遺言と思ってその通りに実行 もありません。私は本師から生前いわれてい もができることでもなく、体験できるわけで て大切な情報を言いのこすこと。これは誰 ふつう遺言とは、 臨終間近に近親者に対し で

坐禅堂まで設けられたしあわせ者です。これ さぞかし無念であっただろう。そんな念いが らは実父の声ならぬ遺言でした。 をかけてすべての伽藍を復興したばかりか、 ぬけず、 やせ細った寺の復興を果たせぬままの急逝、 は残らず伐られ、戦後は耕地すべてを解放し、 戦時中は梵鐘はじめ多くの仏具を供出、 龍泉院の先住である実父は早く急逝したの 何の遺言ものこしませんでした。 私はその重荷を担って一つ一つ年月

## 山内動静

# 第四回在家得度式



## 五年振り厳かに挙行

五月一五日午前一○時半、第四回在家得度五月一五日午前一○時半、第四回在家得度者が二一名の合計三○名。過去三回とほぼ同じ人数でした。これまでは一○年に一回行われていましたが、御老師が高齢になられたこともあり、龍泉院参禅会幹部の要請により五年振りに行われました。

干早まっています) 全体の式次第は次の通りです。(時間は若

午前一〇時

開会式

午前一〇時四五分 得度式

午前一一時四五分 記念撮影

正午

点点

午後二時

説戒

閉会式

初の予定。若干の変更がありました)得度式の内容は次の通りです。(これは当

一、奏楽、法弟入場

三、 上香、普同三拝(全員共に立ったまま二、 小鐘一会、七下鐘、戒師入堂(合掌)

三拝)

四、 奉請(戒師が佛祖の降臨証明を請する)

五、礼讃(戒師が奉読

六、 洒水灌頂(戒師が法弟全員に浄水を灌

七、 剃髪(戒師の後に従って一句づつ唱和)ぎ、心身を浄める)

前に進んで受ける) 八、 安名・絡子授与 (新法弟が順に戒師の

地で三拝)地で三拝(戒師に対し、全員、五体投

授菩薩戒

+

づつ唱和)・懺悔、(戒師の後に従って全員で一句

・三帰戒、(同右)

三聚浄戒、(同右)

・十重禁、(同右)

・誓持戒(戒師の「能く持つやいなや」

に対し「能く持つ」と全員で唱和

で受ける)一、血脈授与(新法弟が順に戒師前に進ん

二、誓いの言葉(原司さん)

三、回向(御老師)

十四、処世界梵(小畑節朗代表)

十六、戒師退堂 法弟退堂十五、普同三拝(全員共に五体投地で三拝)

フー・発音に対位・発音に対位

今回は既に得度を受けた方々が各種の役職

五ページに)
新得度者が感想などを述べました。(内容はまた、閉会式の後、大悲殿で茶話会があり、を受け持って、裏方として奮闘されました。

#### 説戒

# いたらぬ身なれど戒を保つ覚悟

葉をいただきました。 堂頭老師より、説戒として次のようなお言

ラバラに行っています。 得度とは、インドでは「救済する」という を表得度は宗門の規定にはなく、各寺院バ を表得度は宗門の規定にはなく、各寺院バ を表得度は宗門の規定にはなく、各寺院バ を表し、安名を戴いています。 を表し、おうになり、現在、 を表し、おきにはなく、という。

す。の教えを実践していく集団のためのものでの教えを実践していく集団のためのものでに、はは人教の教えを保っていくための個人的なもの、「律」とは仏教の教えを保っ

八四代、皆さまで八五代ということになりまままで赤い線で結ばれております。私までで釈迦さまから取次ぎました私を通して、皆さ本日皆様が授かりました「お血脈」は、お

戒でもっとも重要なのは三帰戒です。書なのです。「血脈」とは「戒脈」なのです。教の戒がつながってきていることを示す証明す。これは、お釈迦さまから皆さままで、仏す。

「「「無法に、」 に「いっ」 こうです。 仏に帰依する、ということです。 「南無帰依仏」とは、ブッダに、釈迦牟尼

宇宙の法則からはずれて幸せに生きることは真理の法則に帰依するということです。天地「南無帰依法」とは「法」、すなわち宇宙の



説戒をなさる御老師

できません。

す。

(本教の教えを行う集団が「サンガ」であります。「参禅会」や「梅花講」などといった、なわち、仏教の教えを実践する集団のことでなわち、仏教の教えを実践する集団のことで「南無帰依僧」の「僧」とは「サンガ」、す

生戒」「不偸盗戒」です。 十重禁戒の中でも特に大切なのは、「不殺

せん。

せん。

せん。

せん。

せん。

とが大切なのです。「いたらぬ身なれど戒を保つ決意をする」こ「れないから守らなくて良いのではなく、

ります。という字にもともと「盗む」という意味があらゆる犯罪に直結しています。「偸(チュウ)」がに「不偸盗戒」。盗む、ということはあ

ります。
さぼるという意味で「偸生」という言葉もあと恐ろしいのは何もすることなくただ命をむとへに、していのは何もすることですし、もっ「偸眼」とは盗み見をすることですし、もっ

そしてこれは「不妄語戒」とも関連があり

うことも多いようです。ますが盗みをはたらく時には嘘をついてしま

変なお誓いをしたのです。

古さまは先ほど誓持戒で「能く持つや否とは大変なことです。

いりましょう。し、仏さまの弟子としてしっかりと生きてまし、仏さまの弟子としてしっかりと生きてまお互いにいたらぬ身なれど戒を持つ決意を

# 法弟九人、誓いと感慨

ましょう。(上山順) 感激に満ちた得度式を経て、どのような誓い をし、感慨をもったか、その肉声をお伝えし

## 慈船匡齋 (岡本 匡房)

た。誓いを守るよう、とにかく、頑張ります。れを聴いて、「これは大変なことだ」との思戒を聴いて、「これは大変なことだ」との思えられるとして挨拶し、「今後、厳しい修法弟代表として挨拶し、「今後、厳しい修

### 正法淳司(原 司)

作務の時、御老師からいろいろ話して戴き、作務の時、御老師からいろいろ話して戴き、今年生き方に大きな示唆を受けております。今年生の方に大きな示唆を受けております。

## 玄機泰健(河本 健治)

坐禅は私に取ってステージが高かったので坐禅は私に取ってステージが高かったので生かった。得度の意味はすが、境内の雰囲気がよく、その延長線上で、すが、境内の雰囲気がよく、その延長線上で、

## 大仙修道 (佐藤 修平)

きれいな安名を戴きありがとうございました。準備段階から緊張し、肩が痛くなりました。最近、気が長くなったようですが、坐禅で考え方が変わってきたからではないでしょうか。これからも一歩一歩積み上げて行きたりいと思っています。

## 絶学裕徳 (小林 裕次)

自分にぴったりの安名をいただき、感激し

にしました。これからも努力していきたいとの思いを新たいわれたのではないかという気もしました。ています。学ぶことが下手なので「学べ」と

## 大智隆基 (高間 治基)

まりませんでした。とにかく緊張して、疲れ師の祝辞を聞いていて恥ずかしながら涙が止師の祝辞を聞いていて恥ずかしながら涙が止すごく、感動しています。閉会式での御老



得度を受ける新法弟

### 華光明禅(孫明)

す。
□○歳過ぎて居士になるとは思ってもいます。これからは日本に根付いた仏た。仏教は中国から日本に伝わりましたが、た。仏教は中国から日本に伝わりましたが、三〇歳過ぎて居士になるとは思ってもいま

## 自然亮進(山川進)

います。

今回は梅花講の方々と一緒に法要が行われ

ていきたいと思っています。作法もよく分かりませんが、できる限り坐っ思っています。まだ四回しか坐っておらず、安名は私にぴったりであり、大切にしたいと安然は私にぴったりであり、大切にしたいと

## 慈光春恵 (相澤 恵子)

していきたいと思っています。
を持ってきた人の御世話を一○年してきましたが、今回の誓いをみながら、今後とも努力たが、今回の誓いをみながら、今後とも努力



# 二二名が荘重に祝う

を祝う法会。仏教寺院ではどこでも行われてに開かれました。降誕会はお釈迦様のご誕生「降誕会(花まつり)」が荘重な雰囲気のうち四月八日午後二時、お釈迦様の誕生を祝う

れでした。参加者は参禅会員が一四名、梅花講ました。参加者は参禅会員が一四名、梅花講ました。参加者は参禅会員が一四名、梅花講ました。参加者は参禅会員が一四名、梅花講

法話をなさいました。 法要が終わってから、御老師が次のような

で、インドから伝わった伝統行事です。言われています。仏教では一番知られた行事日をお祝いする会で、灌仏会とも仏誕会とも花まつりはお釈迦さまのお生まれになった

暦五三八年といわれているので、その約七○われたのが最初です。日本への仏教伝来は西花祭りは紀元六○六年に奈良の元興寺で行

八日に行われていたようです。になりました。当時は四月八日ではなく五月年後です。その後、日本各地で行われるよう

意泉院には二○○年前に花見堂が作られまた、盛んになることを祈っています。
 一次の子供のころは子供が花見堂に新聞した。私の子供のころは子供が花見堂に新聞した。
 一次のかもしれません。
 一次のがなかったでいました。
 一次のがなり、
 一次のがなが、
 一次のがなが、
 一次のがなが、
 一次のがなが、
 一次のがながです。
 一次のです。
 一次のです。
 一次のがながです。
 一次のがながです。
 一次のがながでする
 一次のがでする
 <l

お釈迦様はインドのルンビニの野で、マーお釈迦様はインドのルンビニの野で、マーちせました。それが甘茶の起源とのことです。と言ったと伝えられていますが、そのようなと言ったと伝えられていますが、そのようなと言ったと伝えられていますが、そのようなと言ったと伝えられていますが、そのようなと記ありえません。ただ「こうなってほしい」という願望が「こうであった」になったのでしょう。偉い方の誕生にはいつもこのような伝説があり、お釈迦様もそうだったのでしょう。

ということ、もう一つは「その素晴らしさはります。ひとつは「人間の命は素晴らしい」「天上天下唯我独尊」には二つの意味があ

とです すべての人に平等に備わっている」というこ

とをするために生まれてきた」という意味な のです。 与えられた命は、「あなたしかできないこ

なる」と言っておられます。 だ」とおっしゃっており、「精進努力で良く 分だけの命なのに宝の持ち腐れにしては残念 こなせない人が沢山います。道元禅師は そのようなことは理屈で分かっても、 使い 自

れを自分の行事にするよう胸に刻むことで 仏教の教えを信じて生きて行くことです。そ います。しかし、大自然は言葉がないので、 人間には正しい他人と大自然が先生であ 「よき人間になりなさい」とも言われて

進努力したいものです。 ます。これを味わって、一つでも二つでも精 変わることなき誕生日」と言う句を詠んでい 小林一茶は花まつりについて、「長き日の

三、経行は一息半歩ですが、前が詰まってい

た時は、

前の人にぶつからないように進ま

ないで、その場で足踏みして下さい。

天に恵まれた充実した一日でした。 じひ』を頂き、 振る舞われ、小冊子『みちしるべ名講話選 茶話会に移りました。御老師から甘茶などを 終了後、雲堂で一炷、坐禅を組み、その後 四時過ぎに解散しました。好

## 《坐禅指導

# 細かいことにこだわるな

す。 個別質問が行われました。概要は次の通りで は新人を含む三四名。約一五分の指導の後、 四月二四日、 午前八時三〇分に上山。指導を受けたの 恒例の坐禅指導が行われまし

一、坐禅はあまり細かいことにこだわること はありません。普段からそう指導していま

二、左右揺振は左右だけでなく、前後にも行 ますが、体をほぐすために早めに単に上が 最後は安定した状況で止めます。 は大きく揺らし、徐々に小さくしていき、 り一○回ぐらいやってもいいのです。最初 います。「五回程度」がよいと言われてい

二円相の方が詰まりにくくなって多くの人 です。当山は永平寺に倣い一円相ですが 総持寺は上間と下間を分けてする二円相 永平寺では雲堂を一周する「一円相」、

> 幹事など幹部と話してみたいと考えていま が回りやすくなるかもしれないので、 代表

四、坐蒲は「龍泉院のラベル」に関係なく、

どのような向きでも結構です。ただ、終了

五、警策を受ける時は、警策を入れやすいよ うに首を左前に傾けて欲しい。そうしない と耳を切ってしまう恐れがあります。警策 時にはラベルを壁とは反対にします。

を受けた後は合掌低頭してください。

この後、問答で次のような質問が出ました。 を入れた方もまた礼をしています。

答 まず前を向いて挨拶します。これは坐蒲 だ、坐禅が終了する時は逆にします。 後ろの人に挨拶(対坐問訊)をします。 にするのではなく、両側の人に敬意を表し て挨拶(隣位問訊)するのです。それから

答え 問、心をどこにおくのがよいのでしょうか。 問 るところがよいのではないでしょうか。 掌の上がよいという説もありますが。 呼吸を大きくすると体が揺れてしまいま どこでもよい。自分の心が一番安定す

す。どうすべきでしょうか。

問、坐蒲に坐る時は坐蒲の方に先に礼をする

のですか。

答え 揺れてもよい。複式呼吸することが大 切です。

# 施食会、椅子が足りない盛況

物置からかき集めるほどの盛況でした。 の方々が参加、 今年は一二人の僧侶の方と約二〇〇名の檀家 八月一六日、恒例の施食会が行われました。 椅子が足りずに雲堂や台所、

年通り、 行いました。 職が約五〇分、説教をされました。また、例 施食会に先立ち、 参禅会の会員が一六名参加、作務を 東京大龍寺の太田賢孝住

員で唱和して始まりました。 施食会は各寺院からこられた住職が参列し 御老師が入場、 開経偈、 般若心経を全

要は円成しました。 員が参拝して、 務めた護持会の方々や作務に参加した参禅会 が「三界萬霊」の位牌に参拝、 その後、 住職が修証義を唱える中、 御老師以下の住職が退場、法 最後に裏方を 参列者

東日本大震災、 の言葉を述べられました。 法要後、 御老師が単に、参列者だけでなく、 御老師から夕食の弁当が振る舞わ 熊本大地震の被災者まで供養



焼香をする壇家の方々

#### れ、 きました。 なし、 最中、 飲料水などのおみやげを頂

#### 思い遣り

### 東京大龍寺住職 曹洞宗管内布教師

#### 太田賢孝老師

いた時の教え子で、やや緊張しています。 今日は三つの言葉だけ覚えてください。そ 私は椎名老師が駒澤大学で教鞭を執られて

> 僧」です。これは「お釈迦を大切にし、 を大切にする」ということです。 迦様の教えを大切にし、 れは「南無帰依仏」「南無帰依法」「南無帰依 一緒に修行する仲間 お釈

ということなのです。 は「遣り」という字を書きます。つまり、 「体は行けないが、気持ちは伝わっている」 小さいころ、父から「お唱えが大切だよ」 仏法とは「思いやり」です。この「やり」

といいってお札を貰いましたが、今ひとつピ ンと来ませんでした。しかし、三年前、その



参列なさった各寺の住職

大切さが分かりました。

聞きました。 苦しいとき唱えていると見舞いに行った父にで「オン シラバッタ リニ ウン ソワカ」とこの時、妹がガンをわずらいました。病床

なくなりました。か言えなくなり、最後は「オン」としか言えか言えなくなり、最後は「オン」としか言え

と思いました。と同じ意味です。この時、これが同事である「同事」という言葉がありこれは「思い遣り」リニ ウン ソワカ」と唱えました。仏教ではリニ ウン ソワカ」と唱えました。仏教では

をお知らせします。

た。

は

ないで欲しい

と言われました

と聞きました。

『年内一杯

のはさんから

『あと何日生きられますか

と言ったところ

のないで後、主治医の方から

また、妹が亡くなった後、主治医の方から

事」だと思います。
「死期は本人には知らせない」というのが「同を支えてつもりが、実は我々が支えられていっかですが、これが逆でした。みんなで妹一般的ですが、これが逆でした。みんなで妹

これは道元禅師のお考えと同じです。

# 四五周年実行委からのお知らせ

昨年一一月に四五周年実行委員会が発足し、数回委員会で検討した結果、周年行事としては在家得度式、寺宝展、記念講演会、東北旅行、記念出版を行うことになりました。 本家得度式は五月一五日(日)午前一○時から挙行され、新得度者九名、再得度者二一名の合計三○名の方が得度されました。

の品の案内文について作成しているところででにリストアップされており、現在、各出展見(日)まで龍泉院本堂で開催されます。龍島に日、日)まで龍泉院本堂で開催されます。龍泉院が蔵の佛像・日本画・書・額などの寺宝泉に対しているところでの品の案内文について作成しているところでの品の案内文について作成しているところでの品の案内文について作成しているところで



寺宝展のチラシ

す。

ルを行い、入念な準備作業が進行中です。す。すでに六月一一日には展示会のリハーサ方法やPRの方法について検討を加えていま寺宝展の関係者は頻繁に会合を持ち、展示

記念講演会は寺宝展の最終日である一一月 記念講演会は寺宝展の最終日である一一月 記念講演会は寺宝展の最終日である一一月 記念講演会は寺宝展の最終日である一一月 記念講演会は寺宝展の最終日である一一月

先生は仏教美術、特に鎌倉時代の佛像に関すど多数の著書を出されています。また、塩澤『菩提心の研究』『ブッダの最期のことば』な者で、『禅の思想 インド源流から道元まで』田上先生は仏教思想・禅思想研究の第一人

などがあります。 倉時代造像論―幕府と仏師』『白井市の仏像』 らっしゃいます。著書には『鎌倉大仏の謎』『鎌 らっしゃいます。著書には『鎌倉大仏の謎』『鎌 を柏市などの郷土史についても研究されてい

きると思います。
は、大変興味深く示唆に富んだお話を拝聴では、大変興味深く示唆に富んだお話を拝聴でする大家のお二人をお招きしての記念講演

東北旅行は一一月一八日(火)から二〇日 と被災地復興支援及び曹洞宗の古刹を巡るこ に不)までの二泊三日で行われます。今回の 東北旅行は一一月一八日(火)から二〇日

が開山した古刹です。 われ、峨山二十五哲のひとりである無底良韶われ、峨山二十五哲のひとりである無底良記と山します。正法寺は曹洞宗第三の本山とい

盛田老師は平成一八年から平成二四年までに、僧堂で一炷の坐禅を予定しています。と共に指定されています。正法寺では山主さんのに指定されています。正法寺では山主さんのに指定されています。正法寺では山主さんの

總持寺の後堂さんを勤められ、また特派布教

師や特命布教師なども勤められた方で、

わか

のと思います。

て語っていただく予定です。
の被災者支援活動や復興への思いなどについ高橋哲秋老師から、曹洞宗としてのこれまで援ではリーダー的に活動されているご住職の援いて近くの観林寺に伺い、被災者への支

て、南三陸町の津波による被害状況や復興状て、南三陸町の津波による被害状況や復興状で、南三陸町の津波による被害状況や復興状について、現地を回りながら説明してもられた方々の棺で本堂がいっぱいになるほど収れた方々の棺で本堂がいっぱいになるほど収れた方々の棺で本堂がいっぱいになるほど収れた方々の棺で本堂がいっぱいになるほどです。

にある慰霊碑で追善法要を行う予定です。の職員が死者・行方不明者となった旧庁舎前さらに、大槌町町役場の町長を含め四○人

でいるのでは、<

助にもなると思います。

一五〇頁程度の本を上梓する予定です。さしく読む宝鏡三昧」に加筆して、A五版連載された「やさしく読む参同契」と「や連載された「やさしく読む参同契」と「や

石頭希遷禅師が撰述された『参同契』は曹石頭希遷禅師が撰述された『宝鏡三昧』は大切な法要の時に読まれる重要なお経です。また、洞山良价禅師が撰述された『参同契』は曹

水さんにもお送りしようと考えています。方がおられるのではないかと思われます。『参の記念出版本は、参禅会の方々への配布のみの記念出版本は、参禅会の方々への配布のみの記念出版本は、参禅会の方々への配布のみいいては、我々俗人はもしかしその内容については、我々俗人はも

# 参禅二〇年を顧みて

夫婦の参禅二○周年記念のお祝いとして椎名平成二七年度の成道会の佳き日の朝、私共さいたま市 美川恒子

御老師より記念品の贈呈がございますとのお

知らせをいただきました。

させて頂きました。大切な日に私が代表して、晴れの表彰を受けめ坐禅は欠席いたしましたので、このようなめ生神は欠席にまたま、当日夫は体調を崩し療養中のた

心より厚くお礼申し上げます。名御老師直筆の立派な揮毫の大額を頂戴致しました。身に余る光栄に感激いたしました。

大変喜んでおります。 、大変喜んでおりますこと、夫婦共々いろと楽しい思い出いっぱいの充実した余生いろと楽しい思い出いっぱいの充実した余生とのぎ禅会とのご縁を頂戴したお蔭で、いろ

からは、仏様の御子なることを自覚し、さらりに松戸市の廣徳寺ご住職、石川宏学御老師りに松戸市の廣徳寺ご住職、石川宏学御老師りに松戸市の廣徳寺ご住職、石川宏学御老師

きり憶えております。
ご祝辞を賜りましたことなども、今でもはっなる精進に励むようにとのお言葉と心温まる

忘れることができません。 また、御老師をはじめ参禅会道友の皆さん を共に参加させて頂いた数次に亘る中国旅 と共に参加させて頂いた数次に亘る中国旅 と共に参加させて頂いた数次に亘る中国旅

何よりの収穫でした。しかも、この旅には、道友の方々のみならず、奥様方、お身内の方、それそれのご友人、が、奥様方、お身内の方、それそれのご友人、が、奥様方、おり内の方、それそれのご友人、が、奥様方、おり内の方

精進に励みたいと願っております。

立身ともに健康である限り参禅を心掛け一層方々が少なく寂しく思いますが、私共夫婦も、 最近では、月例参禅会に参加される女性の

してお願い申し上げます。 合掌を迎えることが出来たことに感謝し、心より厚く御礼申し上げます。どうか今後とも、御厚く御礼申し上げます。どうか今後とも、御書にない。皆々様に支えられて参禅二○周年

### 想う事

# 一夜接心を体験して

や家族に放言してから一夜接心に参加しまし「ちょっと悟りを開いてくるわ」と、職場豊福伸行(臨床心理士)

坐るものかと思った瞬間もありましたが、落二日目には苦しくて、苦しくてもう二度と



接心中の講話

出来ました。 分自身を律し、 伍する人も不平を言う人もおらず、それが自 励まし何とかやり通すことが

が、坐禅なんだなあという体験でした。 も関わらず、 うことでした。そして、あれだけ辛かったに かは、さらに坐り続けないとわからないとい 当然ながら悟りとはほど遠く、 暫く経つとまた坐りたくなるの 禅の何たる

務室に所属し、カウンセリング、心理療法、 しています。 メンタルヘルスに関する教育を主たる業務と ふだん私は職場の、会社でいうところの医

その中で、

処方薬が半減しました。 ントに坐禅を勧めたところ、 ていました。試しに不安の強いクライエント たところ効果があったということが触れられ 軽度のうつの患者に対して坐禅や瞑想を勧め 数年前に触れた文献に、 不安、軽度の抑うつに悩むクライエ 不安の強い患者、 症状が改善し、

に組む試みを実施しております。クライエン のカウンセリングに加えて、五分座禅を一緒 記の症状を呈するクライエントに対し、通常 効果を確信することになりました。そして上 私自身が懐疑的でありましたが、やがてその そうした事例を積み重ねるにつれ、 初めは

> う簡単な数息観です。 から一〇までカウントしてください。」とい 分間背筋を伸ばして坐って、 トに伝えている内容は簡単で、「就寝前に五 吐く息の数を一

しかし、人に坐禅を勧める自分に大した坐

たのは事実で、 禅経験もなく、どこか後ろめたさを感じてい 会に参加しました。 都内の数か所の瞑想のワークショップや坐禅 力がないということで、これまで千葉県内や 自分でも実践しなければ説得

との一夜接心参加でした。 龍泉院では体験坐禅を含め、 自宅からも近く参加しやすさを感じました。 く、老師の慈愛に満ちた眼差しにも癒され、 な内容で、かつ、寺院でありながら垣根が低 龍泉院参禅会はなかなか本格的 四回参加したあ

られる方々が包丁を担われているのを知り、 こもった感じで美味しく、 品でした。 れ最近口に入れたものの中ではなかなかの逸 ました感心いたしました。 ると思いきや、長年坐禅会に参加なさってお は感動しました。プロの調理師が作られてい 薬石からはじまった食事が、 素材の味を生かさ 特に煮物の旨さに いずれも心の

坐禅の方は第二目の三炷目位から脚の痺れ

思った瞬間に終了の鐘がなりました。 すばかり。遂に足を崩し、あぐらをかこうと 楽になるように、血が通っているイメージト がピークを迎え、辛くて本気で帰りたくなり レーニングを行いましたが、 ました。それでもだましだまし、 痺れはとれず増 痛む部位が

思います。 思います。 きまえておくべき、 なければならない職業や、立場にある人がわ 坐禅は現代にあっても、 今後とも職場で伝えて参りたいと 素養の一つではないかと 特に死と向き合 わ

す。これからも職場の人のため自分自身のた 精進のため、 い形を追求して行きたいと思います。 めに、基本を大切にした上で、 人生に関わる業務を行っているので、 小生自身も職場の人々の、大げさに言えば 坐禅を学んでゆきたいと思いま 取り組みやす 日々の

だと思います。 すが、一夜接心という、集団で集中的に瞑想 醸し出される連帯感もまた他では得難 泊まり込みで坐禅という共通の行を通じて、 出来るというところではないかと思います。 しまうところを、集団の力で乗り切ることが することの効用は、 坐禅は自分自身と向き合う作業では 一人では諦めたり怠けて ありま いもの

### 一夜接心と私

### 松戸市 山桐 照夫

私は地元出身で現在松戸市に住んでいる山私は地元出身で現在松戸市に住んでいる山私は地元出身で現在松戸市に住んでいる山村と申します。龍泉院でお世話になり五年で有といる。

いものです。

私は自我(こころ)に振り回されている生活を何とかしたいと考え「こころ」の安定を求めて坐禅を始めました。こころというもの求めて坐禅を始めました。

に参加をしております。

五年間坐禅をしてきましたが一向に自我を 五年間坐禅をしてきましたが一向に自我を おかげで二日にわたる一夜接心を全うでき かっまかげで二日にわたる一夜接心を全うでき かっまかげで二日にわたる一夜接心を全うでき なっな気がいたします。良い坐禅をさせていような気がいたします。良い坐禅をさせていような気がいたします。 良い坐禅をさせてい おかげで二日にわたる一夜接心に参加し、 
和御できずに居ります。一夜接心に参加し、 
和御できずに居ります。一夜接心に参加し、 
日本間坐禅をしてきましたが一向に自我を

# 無念夢想・・・

### 柏市 高間 治基

近来坐禅の真似事を始めた、いや 従前からお誘い頂いていながら如何にも敷居が高そらお誘い頂いていながら如何にも敷居が高そ

ごし、観た内科と外科の教授をして「この人 ら、ゆるゆると生活している場面、時間をす 場面で遭遇したのは、とある病院での一齣 を超えて、大層な欠陥を二箇所抱えていなが すね、お先にどうぞ」。その老人は血圧限度 察の順番を譲る老人の一言、「お苦しそうで 後から受付をして苦しそうにしている人に診 込めたりしながら様子を伺っておっかなびっ た。なるよう 行くように導かれて町医者か えない、信じられない病状だ」。と言わしめた。 は目に見えない力で生かされているとしか思 る、発菩提心という言葉もある。実際の生活 くりデビュウの時を迎えたと言う所である。 その老人とはまぎれもなく父の日常であっ 修証義に自未得度先度他との文言が見え 例えれば気の弱い亀が首を伸ばしたり引っ

術室内一一時間半の結果。 合掌えば菩薩行を行っていたとの実感が残る。手行して退院したのであった。ここに後から思送り出されて、杖を頼りにしつつも自力で歩の人体提供手術を受けながら、職員の皆様に

# 最澄の『願文』に学ぶ

我孫子市 清水 秀男

一四歳(七八〇年)の時、れる宗教的香り高い一文があります。最澄は日本天台宗の開祖最澄に、『願文』と呼ば

に入山し草奄を結び修行生活に入る。く国分寺を離れ出世栄達の道を捨て、比叡山の時、東大寺で具足戒を受戒。その後間もなのだ江国分寺 行表を師として得度。一九歳

したのが『願文』です。の壮烈な志・決意とも言うべきものを書き記の壮烈な志・決意とも言うべきものを書き記に入山し草庵を結び修行生活に入る。

ない。にもかかわらず自分は他人から衣服や行いを省みれば、戒律を守ることも出来ていい身でありながら、謙虚に自分自身の過去のある。人の身としてこの世に生を受けた得難末法の世であり、我々の命ははかなく無常でまず、現世は苦悩に満ち、汚濁にまみれたまず、現世は苦悩に満ち、汚濁にまみれた

大附属病院へ、最後は東大病院で関係者総見

ら小さな病院へ、更に大型総合病院から千葉

様である 食事などの施しを受けており、真理に暗く愚 かにして、 命あるもののあだとなっている有

うと述べた上で、自らのことを次の様に語っ 業をなさねば、 人として生を受けた限りは、 死して地獄の薪となってしま 命ある間に善

悩にまみれた人間、 愚中極愚。狂中極狂。塵禿有情。底下最澄 僧として出家しながら、煩悩から抜けきれ (愚者の極み、狂人の極み、僧形なるも煩 最低最下の最澄

味

ない自分自身を厳しく見つめ徹底内省してい る事が分かります。

五つの心願を立てています。 その上で最澄は、仏道成就の為に不退転の (一) 真実の悟りの段階に達しなければ、

- 比叡山を下りて世間には出ない。 真理を照らし出す心を得なければ、
- は身につけない。 修行以外の才芸 (医術・卜筮・書画等
- 清浄な戒律を守り身に具えなけれ 施主が催す法会には関わらない。
- 的な交際に関わりを持たない。 悟りの智慧を体得しなければ、 世間
- 五 現世において修した功徳は、独り占

私は今年五月一五日、

椎名老師のお導きに

得るように尽したい めせず、遍く生きとし生けるものに施 して、悉く皆がこの上ない悟りを共に

と宣言しています。 利利他円満の精神ですべての衆生を救いたい そして五つの心願が成就出来たならば、自

伏願 法界衆生 解脱之味独不飲 同登妙覚 法界衆生 安楽之果独不証 同服妙

事なく、すべての衆生と一緒に妙なる悟りの その心の安らぎの果実を自分一人だけで得る 得た悟りを自分一人だけで味わうことなく、 を味わう事としたい) 頂に登り、すべての衆生と共に悟りの醍醐味 (心から願うところは、苦の世界から脱し

に打込む。 抜の五つの願心を立て退路を断って仏道修行 以上の様に、最澄は塵禿有情の自己を懺悔 真実の悟りの智慧を体得すべく、 堅忍不

建立する。まさに大乗仏教の極意を実現した さに崇拝の念を禁じ得ません。 いと、20歳前後で決意している直向きな純粋 ある衆生済度に専念し、衆生と共に仏国土を そして、 仏道成就が叶ったならば利他行で

> した。最初に受けたのは、 より再び在家得度を受ける有難い機会を得ま 一三年一一月三日です。 一五年前の平成

として仏道の実践に精進して来たのかと自分 の心に問えば忸怩たる思いがありました。 しかし、その後本当に出家に準ずる修行者

と思ったからでした。 自分の愚かさを懺悔し、「上求菩提・下化衆生」 澄の『願文』を読み感銘を受け、最澄大師と の菩薩像を目指して精進すべく再出発したい 及ぶべくもありませんが、残り少ない人生、 再度在家得度を受けたのは、その思いと最

あげます。 いご教導を賜りますよう、 今後共、椎名老師はじめ法友の皆様の厳し 伏してお願 い申し

# 柏市泉の「鳥ビシャ」

#### 取手市 近江 礼子

#### 泉 概況

1

馬氏の守り神であったと伝わる。戸数二一〇 祭神は妙見大明神、社紋は九曜星と月星、 会場となる妙見社は相馬氏の居城跡にあり、 に「鳥ビシャ」と呼ばれる伝統行事を行なう。 龍泉院のある柏市泉では、 毎年二月二二日 相

計二四組に分かれる。 東は五組、西は八組、南は六組、中は五組の戸は東・西・南・中の四班に分かれ、さらに

### - 鳥ビシャの由来

柴崎にも伝わる。 作って感謝・供養するようになったという。 が、渡れなかった。すると、亀が背中に乗せ 妙見様が泉に来るため手賀沼を渡ろうとした 養したのが始まりとされる。また、常陸国の 泉の人々は手賀沼の鳥類を食べていた。それ 言い伝えは妙見信仰の強い我孫子市の根戸や に付けたり食べたりしなかったという。同じ ないとされている。また、亀甲模様の物を身 亀を飼ってはいけない、水鳥を獲ってはいけ 水鳥が道案内をした。そのため水鳥と亀を て案内してくれたが、水中の亀は先が見えず、 を見た城主が、約三〇〇年前から鳥を作り供 そして、泉では妙見様が亀に助けられたの 亀を神の使いとして妙見様と共に祀り、 洪水や日照りで穀物が出来ない時、

#### 3 鳥ボク作り

いと]と呼ばれ、当番代表となる。特に一番となる。当番五戸の内、一・二番目が来当[ら一〇名)で、ほぼ四〇年に一回の割合で当番ービシャの当番は家並み順の五戸(男女計

で、来当になると縁起が良いと伝わる。廻って来るが、なかなか来当にはなれないの目はハナメと呼ばれる。当番は四〇年余で

り、糸切鋏・櫛・竹べらで形を整える。仕上集まり、注連縄作りや社殿・社務所の清掃、神・集まり、注連縄作りや社殿・社務所の清掃、神・集まり、注連縄作りや社殿・社務所の清掃、神・集まり、注連縄作りや社殿・社務所の清掃、神・集まり、注連縄作りや社殿・社務所の清掃、神・集まり、注連縄作りや社殿・社務所の清掃、神・集まり、注連縄作りや社殿・社務所の清掃、神・集まり、注連縄作りや社殿・社務所の清掃、神・集まり、注連縄作りや社殿・社の場合に対している。



を引かないとされる。
を引かないとされる。
を引かないとされる。この鳥を食べると風邪をまると、一層カラフルで美しい景色となり、作ったりと箱庭のようにする。鳥ボクに鳥がとまるボクはナラやクヌギの古い根株が原での声が上がった。この鳥を食べると風邪を引かないとされる。

#### 4 鳥ビシャ

の物等の供物と共に鳥ボクも並んだ。米・赤飯・鏡餅・神酒・塩・水・山の物・海二二日、妙見社を見通す社務所の祭壇には

酒拝戴と恙なく済み、センターで直会が開 るという。続いて玉串奉呈、 年の豊凶を占い、そして悪鬼を祓う目的があ 総代長の矢も力強く命中した。この儀式は今 いよく的に当たった。次に区長、そして神社 に向って力強く矢を放った(写真)。矢は勢 矢をとり、正座のまま約一m離れた的 んきゅう」 饌の儀、 午前一〇時過ぎ、宮司により修祓の儀 当番が引き継がれた。 祝詞奏上と神事が進んだ。箭弓 の儀では、まず最初に宮司が弓と 撤饌の儀 鬼 しせ

鷲野谷・印西市浦部の三ヶ所だけである。 現在も鳥ビシャが続いているのは泉・柏市

#### 沼 南 雑 記

平成二八年 【定例参禅会・年間行事】 )内は座談の司会者

> 三月二七 日 三九名

四月 二四 日 (美川氏) 三四名

(添田 昌弘氏)

五月 Ŧi. 日 三〇名

# 龍泉院参禅会簡介

#### 参 禅

一、定例参禅会

日

時 口宣、坐禅、経行、坐禅の順 毎月第四日曜九時(初参加者は八時半) 来山、 正午解散

《坐禅は一炷三〇分、経行は一〇分》

木版三通、開経偈、『正法眼蔵』の提唱

自己紹介・喫茶・座談

一、自由参禅 座講

談

· 坐

褝 時

日

毎月第一日曜と第二土曜九時から正午まで

九時から一一時まで(入退堂自由

一一時から正午まで坐禅堂掃除

※会費無料 【年間行事) 務 年齢・性別など一切不問、初心者には懇切に指導

一、他の行事 一、成道会 、一夜接心 涅槃会(二月一五日)、花祭り(四月八日)、施食会 本年は一二月七日、 本年は六月七~八日、一泊し七炷の坐禅と提唱等 「八月一六日)手伝い、 坐禅二炷・法要・問答・法話等 歳末煤払い(一二月例会後)

作 【会報誌 楘 毎月第一と第三金曜、

明珠 (四月八日と一〇月五日発行

口宣 (年一回

〔ウェブサイト のバックナンバーがご覧になれます http://www.ryusenin.org/] 明珠』 口宣

> 六月四 五月二二日 Ŧi. 日 椎名宏雄老師

佐藤 刑部 修 一 節 平 郎 氏 氏 夜接心

七月二四日 六月二六日 民雄氏) 三二名

八月一六日 施食会大法要作務 (相澤 善彦氏)

八月二八日 山本

【自由参禅】

九月 八月 七月 六月一 四月 七日 三日 三日 四日 四日(一三名) <u></u>日 一日 七名)、 六名)、 八名)、一三日(七名) 八名 六名)、一四日(二名 五名)、一二日(五名 九日(六名 九日(七名)

> れらの蝶は日本では北海道から九 とカラスアゲハを見かけました。こ

【奉仕作務】 四月 三月 一日(五名)、一五日(四名)、 四日(六名)、一八日(三名)

及び第二土曜に境内の掃除等

五月 六日(五名)、 二二日(一名) 三日(五名)、一三日(一名)、 一九日(一名)、二○日(五名) 七日(五名)、二九日(一名) 七日(一名)、

刷/東港出版印刷株式会社

目黒区中目黒1 柏

市 泉 81

8 8

03(5724)730204 (7191)1609

行/天 徳 山 龍 泉 院 千 葉 県

七月 五日(五名)、二七日(三名) 日(五名)、二日(一名)、 (日(一名)、一四日(二名)、

[記念行事委員会] 二日(七名)、 六日(一名

五日(三名

二〇名

六月二六日(一四名) 三月二七日(一四名

八月二八日(一三名) 七月二四日(九名)

も龍泉院及び社会に貢献できればと 得度先度他」の教えを守り、少しで とかしなくてはなりません。「自未 という立派な戒名を頂いた以上、何 考えていますが……。さて。 (匡濟) る毎日です。とはいえ、「慈船匡濟\_ けに「さてどうしようか」 迷ってい ▼龍泉院の境内でゴマダラチョウ た。生臭さを絵に描いたような身だ ▼思いもかけず、在家得度をしまし

段追われるように生活していて、気かけていておかしくないハズ。普州まで分布しているので普段も見 坐禅をされたい方、どなたでもお 内で泰然として坐禅堂があります。 禅会の長い道のりで今は静かな境 づかないだけかもしれません。お 待ちしています。 に参加できることは幸いです。参 つけた気がしました 寺に来て見落としていたものを見 ▼泉院参禅会四五周年の記念行事